

大豆奨励品種（候補）「すずおとめ」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所 作物研究室
担当者：春口 真一

研究のねらい

現在、熊本県における大豆の作付は約3200haであり、そのほとんどが「フクユタカ」の作付である。そのため、収穫・乾燥作業が競合し収穫の遅れにより品質を低下させる一因となっている。また、その用途は主に豆腐用であり、実需・消費者からは地産地消を目的とした納豆用大豆が望まれている。

このような状況から、「フクユタカ」と組合せ可能な熟期で納豆用の小粒大豆である「すずおとめ」を奨励品種にして普及を図る。

研究の成果

「すずおとめ」（交配組合せ：「納豆小粒」/九系50(Hill/みさお)九州沖縄農業研究センター育成)は、「フクユタカ」に比べて次のような特性を有する。

- 1 開花期は4日程度早く、成熟期は13～19日早い”中生の晩”である(表1)。
- 2 主茎長は同等かやや長く、耐倒伏性は同程度である(表1)。
- 3 収量性は劣る(表1)。
- 4 最下着莢節位高は低く、10cm程度である(表1)。
- 5 子実の粒大は小さく、粒揃いは良い(表1、表2)。

普及上の留意点

- 1 熊本県全域において、「フクユタカ」の一部に替えて普及を予定している。
- 2 最下着莢高が低いため、コンバイン収穫時における汚損粒の発生に留意する。

[具体的データ]

表1 各場所における生育、収量、品質

試験場所	農産園芸		高原農研		球磨農研		益城町		泗水町	
	フクユタカ	すずおとめ	フクユタカ	すずおとめ	フクユタカ	すずおとめ	フクユタカ	すずおとめ	フクユタカ	すずおとめ
播種期 (月日)	7.05	7.05	6.05	6.05	7.07	7.07	7.12	7.12	7.17	7.17
出芽期 (月日)	7.10	7.09	6.11	6.10	7.12	7.12	7.10	7.10	-	-
開花期 (月日)	8.19	8.16	8.04	7.31	8.18	8.14	8.23	8.19	8.29	8.26
成熟期 (月日)	10.31	10.12	11.09	10.22	11.11	10.29	11.07	10.25	11.10	10.26
倒伏程度 (0-5)	1.8	0.9	1.7	2.3	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0
主茎長 (cm)	81.9	66.1	62.0	63.8	67.5	71.5	53.3	59.3	60.4	70.9
主茎節数	16.8	14.5	16.5	17.0	14.2	14.3	14.4	13.5	13.8	14.0
分枝数 (本)	4.6	5.7	6.2	7.4	5.4	6.5	6.5	5.2	4.7	5.9
全重 (kg/a)	64.9	50.9	55.4	69.8	73.5	58.7	64.5	37.5	47.4	24.2
子実重 (kg/a)	29.6	26.2	24.5	23.2	37.8	27.4	25.7	18.4	19.8	12.2
標準比	100	89	100	95	100	72	100	72	100	62
最下着莢節位高 (cm)	15.6	12.2	10.7	7.5	14.9	8.7	12.1	9.5	7.8	12.2
百粒重 (g)	28.6	9.4	30.2	8.7	30.5	11.6	27.0	8.6	27.9	9.8
障害粒	紫斑	0.0	0.0	0.9	0.9	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0
	褐斑	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.0
	裂皮	0.5	0.0	1.0	1.0	2.5	1.0	0.9	0.0	0.8
	しわ粒	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	0.0	1.3
品質	外観	3.7	2.9	2.5	4.5	-	-	4.0	5.2	5.2
	等級	3.5	3.5	3.0	7.0	5.8	4.0	2.5	4.8	3.0

表2 粒厚分布 (重量%)

品種	7.9mm 以上 (大粒)	7.9 -7.3 (中粒)	7.3 -5.5 (小粒)	5.5 -4.9 (極小粒)	4.9mm 以下 (くず)
	フクユタカ	61.8	34.4	3.8	0.0
すずおとめ	0.0	0.0	84.6	14.3	1.1

注 2003年度データ



写真2 子実の比較

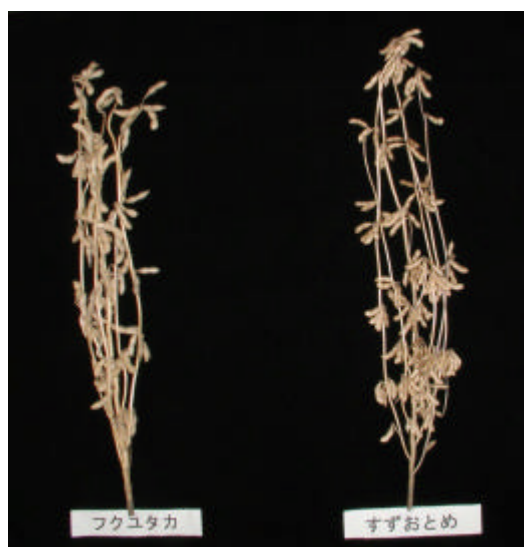


写真1 株サンプル比較